

令和4年度 学校関係者評価報告書

課題、改善方策については、学校関係者評価委員の方々に助言、提言していただいた。

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・入学者の増加を目指し、ホームページはこまめに更新し、学校情報が停滞しないように心がける。SNSを強化し、若者にリーチできるように強化する。

（委員の意見）現代の情報の収集方法においては、PCよりもスマホ、若年層になればなるほどその傾向は顕著であるため、手を抜かないことが重要である。また、学校訪問などを実施し、丁寧に学校説明をして、新入生獲得に向けて努力する。

・教職員の業務の優先順位を決定し、教員の研究時間を確保する必要がある。

（委員の意見）教職員の無駄な業務は外注したり、ITを導入したりして、教員は研究時間を確保することが望ましい。というのも、ファッションにはこれといった正解はなく、また、表現方法も多様化している。学生が求める、我々には想定外の表現方法にも応えて行けるよう、教員の時間的な余裕は必要である。

・PDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルについては、自己評価を教職員で確実に共有し、共通認識のもと実施する。3S（整理、整頓、躰）については、教職員が率先して行い、生徒に指導する。

（委員の意見）3S（整理、整頓、躰）の重要性は、どのような仕事についても言えることで、学生時代に身につけることが出来れば、将来にわたって役立つことである。期日の意識が個人によって異なるようなので、カレンダー機能や工程表などを共有してはどうか。

・撮影会やショー、イベントを実施し、普段とは違う環境を作る等して、学生のモチベーションアップにつなげる。

（委員の意見）上級生と下級生が交流する機会にもなり、良い影響があると思われる。特に外部の方と関わってイベントを実行する際には、学生達は引き締まった行動が出来るのではないかな。

・ファッション学生として、持続可能な社会の実現に向けて自分は何が出来るのか、思考と実行を促す。

（委員の意見）近年のファストファッションは大量生産大量消費を前提としたもので、環境への負荷が世界的な問題となっている。SDGsへの意識の高まりの中で、若者の価値観の中では古着はカッコいいものであり、ファッションナブルなリメイクも注目を浴びているようだ。服飾学生にとっては、今までとは違ったビジネスチャンスがあるのではないかな。

・学生が思考を深め、解決してゆく実力をつけられるよう、教師はサポートしながら、試行錯誤を促す。

（委員の意見）沢山の提出物がある中では、早く作品を仕上げ提出することが目的化してしまいがちだが、重要なのは本人の実力が伸びる事であり、学生でいる間に試行錯誤を通して技術と思考を鍛えることは、実社会で役に立つ。教師は、安易に答えを与えず、かといって放置せず、生徒に考えさせ、解決へと導けるよう努力する。

・学生が希望する就職が叶うよう、サポートを強化する。

（委員の意見）企業とコラボレーションしたり連携することで、学生の成長や、企業への当学院の周知につながるのではないかな。